



ひろば



令和3年12月24日 発行

子どもたちが育てた「ペチュニア」

「しつけ」について考える

校長 久永 浩幸

1・2年生の子どもたちが、毎日お辞儀をしてあいさつしたり、くつを揃えて靴箱に入れたり、着替えた服をきちんとたたんだりしています。この何気ない一つ一つの行動を見ていて、2学期の子どもたちの成長を感じているところです。

残念な大人の行動

少ない座席に荷物を置く人、買うかどうか迷った品物を近くの別のコーナーに置いてしまう人、泥の付いたままのくつで玄関を汚す人など、時々「この人は大人なのに常識のない行動をするなあ」と感じる人に出会うことがあります。よっぽどでなければ直接注意はしたりしないのですが、少し残念で可哀想な気持ちになります。きっと口には出さないけれども、みんな心の中ではそう感じているだろうなあと思うからです。

学校の役割

学校は、子どもを独り立ちさせるための支援をする場所です。そのため、前述のような大人にならないように、正しい型、美しい型にはめる指導もしています。例えば、あいさつをするときは、「立ち止まって、相手の目を見て、あいさつの言葉を口に出し、お辞儀をする」という一連の作法をできるようにさせるということです。このことを一般に「しつけ」とよんでいます。

しつけの意味

しつけは、漢字で「躰」と書きますが、日本でつくられた和製の漢字です。分解すると、「身」と「美」になります。「身だしなみを美しくする」ことを美德とする日本人の心を感じる漢字です。語源は諸説ありますが、着物の「仕付け」からきたという説もあります。御存知のように、「仕付け」とは着物の形が整うように仮に縫いつけておくことであり、この行程を通して美しい着物が出来上がります。ただ、ここで重要なことは、着物が縫いあがると仕付けの糸ははずされるということです。仕付けは手段であって目的ではないわけです。そう考えると、「しつけ」とは、はめられた型をいずれははずし、自立できるようにするためのものだと言えます。



家庭の役割

きっとどの家庭でもすべての美しい行動様式を一つ一つ教えることはしていません。ただ、子どもは家庭の中で祖父母、親、兄弟姉妹の行動を見て、それを真似しているのです。つまり、親があいさつをするからあいさつをするのです。もし、親があいさつをしているのに、子どもがあいさつをしないようなら、するように促します。このときは、親から子へと直接的なしつけが行われることとなります。大人が何も教えなくても、子どもが大人になったときの姿は、今の大人の行動で決まることもわたしたちは認識しておきたいです。



冒頭の1・2年生の素晴らしい成長は、手本としての高学年の子どもたちの姿や行動によるものがきっと大きいのですね。

相手の心を感じ 共によりよい社会をつくる



住用小学校「人権の花運動」閉会式 12月9日



本年度は、人権の花「ひまわり」を育てることを通して、互いに思いやる心や協力し合う心、など様々な心を育んできました。花を育てる中では、子どもたちが土をさわり、雑草を取り、プランターを洗う活動を通して花が育つ喜びを感じる姿が見られました。大輪のひまわりの花が咲きましたが、そこには、一人一人の子どもの思いが込められています。運動の終わりには、法務局の仲宗根さんと人権擁護員の満さんに御来校頂き閉会式を行いました。これからも、人の心を大切に思う子どもに育ててほしいと願うことでした。

★ 住用の子に光を！ ★

登校時のボランティア【児童会活動の取組】

子どもたちが、登校時にボランティアでゴミ拾いをしています。一日でたくさんのゴミを集めて持ってきています。子どもたちの心も育つ素晴らしい取組だと思います。ゴミを捨てる人がいるのは、残念ですが、子どもたちの取組が広がり、ゴミを捨てる人が一人でも減ると、住用がさらに美しく、過ごしやすいところになるだろうと思いました。



【ゴミを回収する2年生】【集めたゴミを回収する5年生】

<1月の行事予定>

- 11日(火) 始業式
- 12日(水) 校内書き初め会
- 18日(火) 鹿児島学習定着度調査
※対象：5年生(19日まで)
- 26日(水) 観点別到達度学力検査
※対象：全学年(27日まで)

<2月の行事予定>

- 2日(水) 中学校入学説明会
- 5日(土) 持久走大会
家庭教育学級(午後)
- 10日(木) 新1年生
入学説明会



玄関を彩るマリーゴールド

